

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 1 区分

【発行日】平成29年4月20日 (2017.4.20)

【公表番号】特表2016-520413(P2016-520413A)

【公表日】平成28年7月14日 (2016.7.14)

【年通号数】公開・登録公報2016-042

【出願番号】特願2016-503203(P2016-503203)

【国際特許分類】

B 0 1 D 11/02 (2006.01)

C 0 2 F 1/26 (2006.01)

A 6 1 L 2/18 (2006.01)

A 6 1 L 11/00 (2006.01)

B 0 9 B 3/00 (2006.01)

C 0 2 F 11/00 (2006.01)

C 0 2 F 1/00 (2006.01)

B 0 9 C 1/02 (2006.01)

B 0 9 C 1/08 (2006.01)

C 1 1 C 1/00 (2006.01)

A 6 1 L 101/02 (2006.01)

A 6 1 L 101/20 (2006.01)

A 6 1 L 101/34 (2006.01)

A 6 1 L 101/50 (2006.01)

A 6 1 L 101/56 (2006.01)

【F I】

B 0 1 D 11/02 Z A B A

C 0 2 F 1/26 A

A 6 1 L 2/18

A 6 1 L 11/00

B 0 9 B 3/00 3 0 4 Z

C 0 2 F 11/00 C

C 0 2 F 1/00 K

B 0 9 B 3/00 3 0 4 J

B 0 9 B 3/00 3 0 4 K

C 1 1 C 1/00

A 6 1 L 101:02

A 6 1 L 101:20

A 6 1 L 101:34

A 6 1 L 101:50

A 6 1 L 101:56

【手続補正書】

【提出日】平成29年3月13日 (2017.3.13)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

基体から植物由来または動物由来の脂肪、油または油脂を除去するための方法であって

、

前記方法は、前記基体を水性組成物と接触させることを含み、

ここで、前記水性組成物は、以下

(a) 水、植物材料および無機塩基を、(i) 約 10℃から約 100℃で約 2 時間から約 4 時間かき混ぜるか、または(ii) 約 10℃から約 100℃で約 10 分から約 8 時間放置し、そして(b) 混合物から溶解されていない固形物を除去することによって得られる混合物と；

0%から約 10 重量%のアルコールと；

約 0.5%から約 15 重量%の前記無機塩基と；

0%から約 10 重量%の塩と；

0%から約 10 重量%の酸と；

0%から約 10 重量%の添加剤と；

約 10 重量%から約 95 重量%の水と；

を含み、

ここで、前記水性組成物は、約 12 から約 13 の pH を有し、

前記植物材料の量は、前記水性組成物の約 1 重量%から約 50 重量%であり、

前記植物材料が、コーングルテンミール、麻の実または大豆であり、

前記植物由来または動物由来の脂肪、油または油脂が、モノグリセリド、ジグリセリド、トリグリセリド、またはこれらの混合物を含み、

前記基体が、土壌、砂、木材、岩石、紙、皮膚、水塊、砂利、泥、粘土、植物、毛髪、布地、金属、ガラス、磁器、コンクリート、生きている動物または死んだ動物である、
方法。

【請求項 2】

前記アルコールが、エタノール、メタノールまたはイソプロパノールである、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】

前記塩基が、水酸化ナトリウム、水酸化リチウムまたは水酸化カリウムである、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 4】

前記塩が、塩化ナトリウム、硝酸ナトリウム、塩化カリウム、塩化カルシウム、塩化マグネシウム、塩化アンモニウム、臭化ナトリウム、臭化カリウム、臭化カルシウム、臭化マグネシウム、臭化アンモニウム、ヨウ化ナトリウム、ヨウ化カリウム、ヨウ化カルシウム、ヨウ化マグネシウム、ヨウ化アンモニウム、硫酸ナトリウム、硫酸カリウム、硫酸カルシウム、硫酸マグネシウム、硫酸アンモニウムまたはこれらの混合物である、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 5】

前記酸が、クエン酸、ギ酸、アスコルビン酸、酢酸、リンゴ酸、アジピン酸、タンニン酸、乳酸、フマル酸、またはこれらの混合物である、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 6】

前記添加剤が、S 型消石灰、界面活性剤、または溶剤である、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 7】

前記溶剤が、d-リモネン、石油由来ディーゼル燃料、バイオディーゼル、またはこれらの組み合わせである、請求項 6 に記載の方法。

【請求項 8】

前記界面活性剤が、ポリソルベートである、請求項 6 に記載の方法。

【請求項 9】

除去が、前記基体からの前記植物由来または動物由来の脂肪、油または油脂の溶解、抽出、可溶化、乳化、鹸化またはミセル化を含む、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 10】

前記接触が、約 5 ° から約 5 0 °C の水性組成物または基体の温度で行われる、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 1 1】

前記水性組成物または前記基体をかき混ぜに供することをさらに含む、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 1 2】

前記植物由来または動物由来の脂肪、油または油脂が、調理用油脂である、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 1 3】

基体上での細菌、真菌またはウイルスの増殖を阻害するための方法であって、前記方法は、前記基体を水性組成物と接触させることを含む、

ここで、前記水性組成物は、以下

(a) 水、植物材料および無機塩基を、(i) 約 1 0 °C から約 1 0 0 °C で約 2 時間から約 4 時間かき混ぜるか、または(i i) 約 1 0 °C から約 1 0 0 °C で約 1 0 分から約 8 時間放置し、そして(b) 混合物から溶解されていない固形物を除去することによって得られる混合物と；

0 % から約 1 0 重量% のアルコールと；

0 . 5 % から約 1 5 重量% の前記無機塩基と；

0 % から約 1 0 重量% の塩と；

0 % から約 1 0 重量% の酸と；

0 % から約 1 0 重量% の添加剤と；

約 0 重量% から約 9 5 重量% の水と；

を含み、

ここで、前記水性組成物は、約 1 2 から約 1 3 の p H を有し、

前記植物材料の量は、前記水性組成物の約 1 重量% から約 5 0 重量% であり、

前記植物材料が、コーングルテンミール、麻の実または大豆であり、

前記基体が、土壌、砂、木材、岩石、紙、皮膚、水塊、砂利、泥、粘土、植物、毛髪、布地、金属、ガラス、磁器、コンクリート、生きている動物または死んだ動物である、
方法。

【請求項 1 4】

前記アルコールが、エタノール、メタノールまたはイソプロパノールである、請求項 1 3 に記載の方法。

【請求項 1 5】

前記塩基が、水酸化ナトリウム、水酸化リチウムまたは水酸化カリウムである、請求項 1 3 に記載の方法。

【請求項 1 6】

前記塩が、塩化ナトリウム、硝酸ナトリウム、塩化カリウム、塩化カルシウム、塩化マグネシウム、塩化アンモニウム、臭化ナトリウム、臭化カリウム、臭化カルシウム、臭化マグネシウム、臭化アンモニウム、ヨウ化ナトリウム、ヨウ化カリウム、ヨウ化カルシウム、ヨウ化マグネシウム、ヨウ化アンモニウム、硫酸ナトリウム、硫酸カリウム、硫酸カルシウム、硫酸マグネシウム、硫酸アンモニウムまたはこれらの混合物である、請求項 1 3 に記載の方法。

【請求項 1 7】

前記酸が、クエン酸、ギ酸、アスコルビン酸、酢酸、リンゴ酸、アジピン酸、タンニン酸、乳酸、フマル酸、またはこれらの混合物である、請求項 1 3 に記載の方法。

【請求項 1 8】

前記添加剤が、S 型消石灰、界面活性剤、または溶剤である、請求項 1 3 に記載の方法。

【請求項 1 9】

前記溶剤が、d ーリモネン、石油由来ディーゼル燃料、バイオディーゼル、またはこれ

らの組み合わせである、請求項 1 8 に記載の方法。

【請求項 2 0】

前記界面活性剤が、ポリソルベートである、請求項 1 8 に記載の方法。

【請求項 2 1】

前記接触が、約 5 ° から約 5 0 °C の水性組成物または基体の温度で行われる、請求項 1 3 に記載の方法。

【請求項 2 2】

前記水性組成物または前記基体をかき混ぜに供することをさらに含む、請求項 1 3 に記載の方法。

【請求項 2 3】

阻害が、死滅を含む、請求項 1 3 に記載の方法。

【請求項 2 4】

阻害が、増殖の遅延を含む、請求項 1 3 に記載の方法。

【請求項 2 5】

阻害が、増殖の防止を含む、請求項 1 3 に記載の方法。

【請求項 2 6】

前記基体を前記水性組成と接触させることの後、前記基体を水ですすぐことをさらに含む、請求項 1 3 に記載の方法。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 8】

本組成物（各々が「本発明の組成物」である）および方法ならびにそれらの利点を、下記の非限定的な「発明を実施するための形態」および「実施例」によってさらに例証する。

本発明の実施形態において、例えば以下の項目が提供される。

（項目 1）

基体から植物由来または動物由来の脂肪、油または油脂を除去するための方法であって、前記基体を、以下：

a. 約 0. 1 重量%から約 9 9. 9 重量%の植物材料；

b. 0 %から約 2 0 重量%の多糖類；

c. 0 %から約 1 0 重量%のアルコール；

d. 0 %から約 1 5 重量%の塩基；

e. 0 %から約 1 0 重量%の塩；

f. 0 %から約 1 0 重量%の酸；

g. 0 %から約 1 0 重量%の添加剤；および

h. 約 0 重量%から約 9 9. 9 重量%の水

を含む水性組成物と接触させることを含む、方法。

（項目 2）

前記水性組成物が、以下：

a. 約 0. 1 重量%から約 2 重量%の植物材料；

b. 0 %から約 2 重量%の多糖類；

c. 0 %から約 1 重量%のアルコール；

d. 0 %から約 1 0 重量%の塩基；

e. 0 %から約 1 0 重量%の塩；

f. 0 %から約 1 0 重量%の酸；

g. 0 %から約 1 0 重量%の添加剤；および

h. 約 90 重量%から約 99.9 重量%の水を含む、項目 1 に記載の方法。

(項目 3)

前記水性組成物が、以下：

a. 約 20 重量%から約 99.9 重量%の植物材料；

b. 0%から約 20 重量%の多糖類；

c. 0%から約 1 重量%のアルコール；

d. 0%から約 15 重量%の塩基；

e. 0%から約 10 重量%の塩；

f. 0%から約 10 重量%の酸；

g. 0%から約 10 重量%の添加剤；および

h. 0%から約 10 重量%の水

を含む、項目 1 に記載の方法。

(項目 4)

前記植物由来または動物由来の脂肪、油または油脂が、モノグリセリド、ジグリセリド、トリグリセリド、またはこれらの混合物を含む、項目 1 に記載の方法。

(項目 5)

前記植物材料が、植物性タンパク質を含む、項目 1 に記載の方法。

(項目 6)

前記植物材料が、麻の実である、項目 1 に記載の方法。

(項目 7)

前記植物材料が、コーングルテンミールである、項目 1 に記載の方法。

(項目 8)

前記アルコールが、エタノール、メタノールまたはイソプロパノールである、項目 1 に記載の方法。

(項目 9)

前記塩基が、水酸化ナトリウム、水酸化リチウムまたは水酸化カリウムである、項目 1 に記載の方法。

(項目 10)

前記塩が、塩化ナトリウム、硝酸ナトリウム、塩化カリウム、塩化カルシウム、塩化マグネシウム、塩化アンモニウム、臭化ナトリウム、臭化カリウム、臭化カルシウム、臭化マグネシウム、臭化アンモニウム、ヨウ化ナトリウム、ヨウ化カリウム、ヨウ化カルシウム、ヨウ化マグネシウム、ヨウ化アンモニウム、硫酸ナトリウム、硫酸カリウム、硫酸カルシウム、硫酸マグネシウム、硫酸アンモニウムまたはこれらの混合物である、項目 1 に記載の方法。

(項目 11)

前記酸が、クエン酸、ギ酸、アスコルビン酸、酢酸、リンゴ酸、アジピン酸、タンニン酸、乳酸、フマル酸、またはこれらの混合物である、項目 1 に記載の方法。

(項目 12)

前記添加剤が、S 型消石灰、界面活性剤、または溶剤である、項目 1 に記載の方法。

(項目 13)

前記溶剤が、d-リモネン、石油由来ディーゼル燃料、バイオディーゼル、またはこれらの組み合わせである、項目 1 に記載の方法。

(項目 14)

前記界面活性剤が、ポリソルベートである、項目 1 に記載の方法。

(項目 15)

前記組成物が、前記植物材料中に存在するまたは前記植物材料に由来するもの以外の多糖類を含まず、前記植物材料が麻の実であり、そして前記水性組成物が、イソプロパノール、クエン酸、S 型消石灰、水酸化ナトリウムおよび塩化ナトリウムをさらに含む、項目 1 に記載の方法。

(項目 1 6)

前記基体が、土壌、砂、木材、岩石、紙、皮膚、水塊、砂利、泥、粘土、植物、毛髪、布地、金属、ガラス、磁器、コンクリート、生きている動物または死んだ動物である、項目 1 に記載の方法。

(項目 1 7)

除去が、基体からの前記植物由来または動物由来の脂肪、油または油脂の溶解、抽出、可溶化、乳化、鹸化またはミセル化を含む、項目 1 に記載の方法。

(項目 1 8)

前記接触が、約 5 ° から約 5 0 °C の水性組成物または基体の温度で行われる、項目 1 に記載の方法。

(項目 1 9)

前記水性組成物または前記基体をかき混ぜに供することをさらに含む、項目 1 に記載の方法。

(項目 2 0)

前記植物由来または動物由来の脂肪、油または油脂が、調理用油脂である、項目 1 に記載の方法。

(項目 2 1)

前記基体を水性組成物と接触させることの後、前記基体を水ですすぐことをさらに含む、項目 1 に記載の方法。

(項目 2 2)

基体上での細菌、真菌またはウイルスの増殖を阻害するための方法であって、前記基体を、以下：

i. 約 0. 1 重量% から約 9 9. 9 重量% の植物材料；

j. 0 % から約 2 0 重量% の多糖類；

k. 0 % から約 1 0 重量% のアルコール；

l. 0 % から約 1 5 重量% の塩基；

m. 0 % から約 1 0 重量% の塩；

n. 0 % から約 1 0 重量% の酸；

o. 0 % から約 1 0 重量% の添加剤；および

p. 約 0 重量% から約 9 9. 9 重量% の水を含む水性組成物と接触させることによる方法。

(項目 2 3)

前記水性組成物が、

i. 約 0. 1 重量% から約 2 重量% の植物材料；

j. 0 % から約 2 重量% の多糖類；

k. 0 % から約 1 重量% のアルコール；

l. 0 % から約 1 0 重量% の塩基；

m. 0 % から約 1 0 重量% の塩；

n. 0 % から約 1 0 重量% の酸；

o. 0 % から約 1 0 重量% の添加剤；および

p. 約 9 0 重量% から約 9 9. 9 重量% の水を含む、項目 2 2 に記載の方法。

(項目 2 4)

前記水性組成物が、

i. 約 2 0 重量% から約 9 9. 9 重量% の植物材料；

j. 0 % から約 2 0 重量% の多糖類；

k. 0 % から約 1 重量% のアルコール；

l. 0 % から約 1 5 重量% の塩基；

m. 0 % から約 1 0 重量% の塩；

n. 0 % から約 1 0 重量% の酸；

o. 0 %から約 10 重量%の添加剤；および

p. 0 %から約 10 重量%の水

を含む、項目 22 に記載の方法。

(項目 25)

前記植物材料が、植物性タンパク質を含む、項目 22 に記載の方法。

(項目 26)

前記植物材料が、麻の実である、項目 22 に記載の方法。

(項目 27)

前記植物材料が、コーングルテンミールである、項目 22 に記載の方法。

(項目 28)

前記アルコールが、エタノール、メタノールまたはイソプロパノールである、項目 22 に記載の方法。

(項目 29)

前記塩基が、水酸化ナトリウム、水酸化リチウムまたは水酸化カリウムである、項目 22 に記載の方法。

(項目 30)

前記塩が、塩化ナトリウム、硝酸ナトリウム、塩化カリウム、塩化カルシウム、塩化マグネシウム、塩化アンモニウム、臭化ナトリウム、臭化カリウム、臭化カルシウム、臭化マグネシウム、臭化アンモニウム、ヨウ化ナトリウム、ヨウ化カリウム、ヨウ化カルシウム、ヨウ化マグネシウム、ヨウ化アンモニウム、硫酸ナトリウム、硫酸カリウム、硫酸カルシウム、硫酸マグネシウム、硫酸アンモニウムまたはこれらの混合物である、項目 22 に記載の方法。

(項目 31)

前記酸が、クエン酸、ギ酸、アスコルビン酸、酢酸、リンゴ酸、アジピン酸、タンニン酸、乳酸、フマル酸、またはこれらの混合物である、項目 22 に記載の方法。

(項目 32)

前記添加剤が、S 型消石灰、界面活性剤、または溶剤である、項目 22 に記載の方法。

(項目 33)

前記溶剤が、d-リモネン、石油由来ディーゼル燃料、バイオディーゼル、またはこれらの組み合わせである、項目 22 に記載の方法。

(項目 34)

前記界面活性剤が、ポリソルベートである、項目 22 に記載の方法。

(項目 35)

前記組成物が、前記植物材料中に存在するまたは前記植物材料に由来するもの以外の多糖類を含まず、前記植物材料が麻の実であり、そして前記水性組成物が、イソプロパノール、クエン酸、S 型消石灰、水酸化ナトリウムおよび塩化ナトリウムをさらに含む、項目 22 に記載の方法。

(項目 36)

前記基体が、土壌、砂、木材、岩石、紙、皮膚、水塊、砂利、泥、粘土、植物、毛髪、布地、金属、ガラス、磁器、コンクリート、生きている動物または死んだ動物である、項目 22 に記載の方法。

(項目 37)

前記接触が、約 5 ° から約 50 °C の水性組成物または基体の温度で行われる、項目 22 に記載の方法。

(項目 38)

前記水性組成物または前記基体をかき混ぜに供することをさらに含む、項目 22 に記載の方法。

(項目 39)

阻害が、死滅を含む、項目 22 に記載の方法。

(項目 40)

阻害が、増殖の遅延を含む、項目 2 2 に記載の方法。

(項目 4 1)

阻害が、増殖の防止を含む、項目 2 2 に記載の方法。

(項目 4 2)

前記基体を前記水性組成と接触させることの後、前記基体を水ですすぐことをさらに含む、項目 2 2 に記載の方法。